

私立中高一貫校における進路指導とキャリア教育(その2)

- 中学生・高校生に自分・未来・夢を考えさせる進路指導・キャリア教育 -

森 弘 達 (昭和薬科大学附属中学・高等学校教諭)

1. はじめに

この研究成果報告書では、私の勤務校である昭和薬科大学附属高等学校・中学校において、研究・開発・実践した、私立中高一貫校における6年間の学校生活の位置づけ、より高い目標を設定し、実現のために努力する生徒を育てるために行った生徒のキャリア形成のサポート、首都圏難関大学ツアー、自学自習力の育成、タイムマネジメントノートを活用した進路指導、ネットワーク力を活用したキャリア教育講演会の成果などについて紹介し、私立中高一貫校における進路指導・キャリア教育の新しい在り方を探る。

2. 私立中高一貫校における6年間の学校生活の位置づけ

平成17年度の研究成果報告書では、大学入試までのタイムテーブル(私立中高一貫校の進路指導・キャリア教育)を提示したが、今回は、私立中高一貫校における6年間の学校生活の位置づけを提示する。

- 中学1年生 中高一貫教育のすべての面で基礎となる最も重要な時期に生活習慣・学習習慣を確立する。
- 中学2年生 教科面で中学校課程を修了するので、高等学校課程の土台となる学力を確立する。
- 中学3年生 高校入試という試練がないので、高校入試以外の大きな試練を自分で設定し、それを克服することで成長する。
- 高校1年生 自分の夢を具体化し、適性にあった文理選択・学部学科選択を行うために、自分の将来について真剣に考える。
- 高校2年生 志望校を決定し、理想(目標)と現実(学力)をしっかりと見据えて学力を伸ばす。
- 高校3年生 大学受験において志望校合格に向けて、6年間の学習のまとめを行う。

以上、簡単ではあるが、各学年の位置づけをワンフレーズに集約し、生徒にわかりやすく伝えることによって定着を図っている。中学生の宿泊研修や高校生の進路講演会で私立中高一貫校における6年間の学校生活の位置づけを生徒に伝え、徹底している。

3. より高い目標を設定し、実現のために努力する生徒を育てる

(1) 生徒のキャリア形成のサポート

昭和薬科大学附属高等学校・中学校では、平成18年度の進路指導部方針として、東京大学、京都大学、国公立大学医学部医学科だけが大学ではないが、より高い目標を立て、頑張ろうという意味を込めて「めざせ東大・京大・国公立大医学科レベル」というスローガンの下に、より高い目標を設定し、実現のために努力する生徒を育てるという進路指導の柱を構築した。生徒ひとりひとりが自ら将来、どのような形で自己実現や社会貢献ができるのか、どんな職業に就きたいか、そのためにはどの大学の学部・学科で学びたいかを考えられるようにサポート活動を展開している。

(2) 首都圏難関大学ツアーの実施

昭和薬科大学附属高等学校・中学校では、志望校の実際の雰囲気に触れ、学習へのモチベーションを高め、また、東京中心部の様子を見聞し、普段あまり感じられない刺激を得ることで社会への理解を深めることを目的に首都圏難関大学ツアーを開催した。対象は、高校1～3年生の希望者である。2泊3日の日程で1日目は、東京に移動し、本校卒業生による講演会および交流会（東京大学・東京工業大学・一橋大学・早稲田大学・慶應義塾大学）を開催した。2日目は、午前中、東京大学駒場キャンパスを見学し、東京大学本郷キャンパス食堂で昼食をとり、午後、東京大学本郷キャンパスを見学し、その後、東京大学薬学部天然物化学教室教授海老塚豊氏による特別講義を受講した。夕方、駿台予備学校にて、2号館校舎長畑迫亮氏による東京大学入試講演会、大島保彦氏による東大英語の授業を受講した。3日目は、午前、全員で早稲田大学を見学し、午後、3コースに分かれて、一橋大学、東京工業大学、慶應義塾大学をそれぞれ見学し、夜、沖縄に戻った。参加した生徒たちの感想としては、「充実した3日間であった」「実際に志望校を見学できた」「東京で学生生活を送っている先輩方と交流できたことが良かった」などが出され、好評であった。

(3) 自学自習力の育成

昭和薬科大学附属高等学校・中学校では、学力向上対策の一環として自学自習力の育成を目指し、家庭学習を奨励し、また、家庭学習が定着しない生徒のために進路指導部がサポートを行っている。そのサポートの内容には、午後8時までの居残り自習と休業日の自習登校がある。午後8時までの居残り自習は、高校1～3年生を対象に、多目的教室・進路資料室を開放する方法で実施しており、243名の利用者（登録者）がいる。ただし、午後8時までの居残り自習は、下校のスクールバスが出ないために保護者が迎えに来ることが条件となっている。休業日の自習登校は、中学生・高校生の全学年を対象に休業日の午前9時～午後6時まで多目的教室・進路資料室・英会話教室を開放する方法で実施しており、472名の利用者（登録者）がいる。なお、平成18年度の2学期からPTAの支援によって図書館ボランティアが始動し、休業日の図書館利用が可能となり、図書館においても自学自習ができるようになった。

4. タイムマネジメントノートを活用した進路指導

(1) タイムマネジメントの必要性

昭和薬科大学附属高等学校・中学校におけるタイムマネジメント導入の理由は、自学自習時間の減少、提出物の提出率の低下、学力の低下などへの対策である。将来、自分の就きたい職業や社会貢献、自己実現などの目標をなかなか設定できない生徒、毎週・毎日の生活習慣や学習習慣の確立ができない生徒が増加している。それぞれの目標に対して与えられている時間は有限であり、限られた時間をいかに有効に活用するかが成功の秘訣である。

(2) タイムマネジメントノートの発行

タイムマネジメント導入の具現化は、タイムマネジメントノートであり、毎週・毎日、人生の目標(夢)、志望校、今週の目標、日々の時間管理について考え、記入させることによって、生徒にモチベーションを持続させ、目標に向かって努力させる仕掛けである。

平成18年度に発行し、中学生・高校生全員に配付し、学年ごとに記入例を提示し、タイムマネジメントの大切さ、時間の戦略、長期目標・中期目標・短期目標と長期計画・中期計画・短期計画の立て方、記入法などを指導した。中学生に対しては宿泊研修で指導を徹底し、その後は各クラス担任による指導も併せて行っている。高校生に対しては進路講演会での指導と各クラス担任による指導を併せて行っている。



(3) 生徒のタイムマネジメントノートの利用例

利用は各学年・各クラスに任せている。学校としては、学習習慣がなかなか確立できず学習成績が振るわない成績不振者に対して記入を義務付けている。また、進路指導部では、生徒が1週間ごとに学習計画を立て、計画的に自学自習に粘り強く取り組むように、中学生2時間以上、高校1～2年生3時間以上、高校3年生4時間以上を毎日の自学自習時間の目安としている。

5 . キャリア教育講演会の成果 - ネットワーク力を教育に活用する -

平成18年12月16日に昭和薬科大学附属高等学校・中学校において京都大学大学院人間・環境学研究科教授鎌田浩毅氏をお招きし、「地球科学入門、成功術 - 時間の戦略」をテーマにキャリア教育講演会を中学生・高校生・保護者を対象に開催した。講演会の目的は、タイムマネジメント教育の推進と補強である。講演会では、「活きた時間」「なぜ勉強するのか」「成功とは何か」「時間の戦略」「受験勉強のやり方」「教養について」などについてお話しして頂いた。生徒・保護者の評価は高く、質問も多数出され、盛況であった。

6 . おわりに

今回の研究・実践を通して、私立中高一貫校における進路指導・キャリア教育について、私立中高一貫校における6年間の学校生活の位置づけを考えることによって、生徒にわかりやすく6年間をとらえさせることができた。より高い目標を設定し、実現のために努力する生徒を育てるために行ったキャリア形成のためのサポート、首都圏難関大学ツアー、自学自習力の育成は、生徒や保護者から高い評価を頂き、今後、その成果が期待される。タイムマネジメントノートを活用した進路指導では、生徒の自立を支援できたと考えている。キャリア教育講演会の成果はとても大きく、世界的に有名な火山学者鎌田浩毅氏と拙者のネットワークによって実現した。鎌田浩毅先生による「成功術 - 時間の戦略」は昭和薬科大学附属高等学校・中学校のタイムマネジメント教育を補強するものとなった。

最後に、今回の研究を行うに当たり、協力していただいた財団法人日本私学教育研究所、東京大学、東京大学薬学部天然物化学教室教授海老塚豊氏、京都大学大学院人間・環境研究科教授科鎌田浩毅氏、早稲田大学、慶應義塾大学、駿台予備学校、郁文館夢学園、かえつ有明中学校・高等学校、杉並区立和田中学校校長藤原和博氏、株式会社キャリアリンク、そして勤務校である昭和薬科大学附属高等学校・中学校に対して感謝申し上げます。